

がんセンターに通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、診療後の残余検体と診療情報等を使って行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。なお、この臨床研究は倫理審査委員会の審査を受け、研究方法の科学性、倫理性や患者さんの人権が守られていることが確認され、研究機関の長の許可を受けています。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

《研究課題名》 治癒切除不能な固形悪性腫瘍における血液循環腫瘍 DNA のがん関連遺伝子異常及び腸内細菌叢のプロファイリング・モニタリングの多施設共同研究（SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN）

《共同研究の代表機関名・研究代表者》 国立がん研究センター東病院 消化管内科 科長 吉野孝之

《研究の目的》 固形がん患者さんの血液中のがん細胞由来の遺伝子異常と腸内細菌叢をプロファイリング・モニタリングし、臨床情報（治療歴や治療効果など）およびがん組織のがん関連遺伝子異常などの関連について明らかにすることです。プロファイリングとは、遺伝子異常や腸内細菌叢の情報を収集することを意味し、またモニタリングとは遺伝子異常や腸内細菌叢の情報を経時的に評価することを意味します。血液中のがん細胞由来の遺伝子異常や腸内細菌叢のプロファイルは新たな治療開発のための疫学情報として重要です。また、血液中のがん細胞由来の遺伝子異常や腸内細菌叢のプロファイルが薬物治療によってどう変化するかは明らかになっていないので、これらをモニタリングすることは、薬物療法の抵抗性を克服する治療開発に繋がります。

《研究期間》 研究許可日～2025年3月31日

《研究の方法》

●対象となる患者さん

治癒切除不能な固形悪性腫瘍における血液循環腫瘍 DNA のがん関連遺伝子異常及び腸内細菌叢のプロファイリング・モニタリングの多施設共同研究（SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN）に参加された方

●研究に用いる試料・情報の種類

試料：組織 等

情報：本研究で得られた血液／組織／腸内細菌叢の解析結果、臨床情報（施設症例番号、生年月日、年齢、イニシャル、性別、既往歴、治療歴）等

《外部への試料・情報の提供》

がんに関連する遺伝子異常の有無などを調べる対象とする組織検体を、G&Gサイエンス株式会社（〒960-1242 福島市松川町美郷 4-1-1）に保管します。本研究に関する臨床情報と血液および組織の解析データの統合解析を、ダイナコム株式会社（千葉県千葉市美浜区中瀬 2-6-1）に委託し、臨床情報と腸内細菌叢解析データの統合解析を、株式会社センスタイムジャパン（京都府京都市中京区御池之町 324-1 御池幸登ビル 4階）で行います。データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。

個人の識別には症例登録時に発番される本研究専用の登録番号を用います。患者さんの識別は、各共同研究施設で作成された登録番号と患者さんの施設症例番号（ID）等を併記する対応表でのみ可能となり、対応表は各共同研究施設の規定に従い、施設において適切に管理されます。個人情報に該当するも

のは特に慎重に取り扱い漏洩が無いようにいたします。

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で EDC システムへの入力を行います。対応表は、当院の研究責任者が保管・管理します。

《研究組織》

[研究代表者] 国立がん研究センター東病院 吉野 孝之

[研究事務局] 国立がん研究センター東病院 坂東 英明国立がん研究センター東病院 中村 能章

[研究責任者] 関西医科大学附属病院 朴将源 他

<共同研究施設> http://www.scrum-japan.ncc.go.jp/monstar_screen/institutions/

<共同開発機関> http://www.scrum-japan.ncc.go.jp/company_participate/

《この研究に関する情報の提供について》

この研究に関して、研究計画書や研究に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

《この研究での検体・診療情報等の取扱い》

お預かりした診療情報等には匿名化処理を行い、患者さんの氏名や住所などが特定できないように安全管理措置を講じたうえで取扱っています。

《本研究の資金源・利益相反について》

この研究にかかる費用は、国立がん研究センターの産学連携がんゲノムスクリーニングプロジェクトである SCRUM-Japan*に共同開発機関として参加した製薬企業と国立がん研究センターの研究資金から負担しています。研究に参加するか否かであなたの費用負担に違いはなく、研究に参加いただくことで生じる特別な経済上の利益や不利益はありません。

臨床研究における利益相反とは、研究者が共同開発機関などから経済的な利益（謝金、研究費、株式など）の提供を受け、その利益の存在により臨床研究の結果に影響を及ぼす可能性がある状況のことをいいます。この研究は SCRUM-Japan に参加した共同開発機関が費用負担しますが、その意向により研究結果が左右されないように、研究事務局は細心の注意を払います。

この研究における利益相反の管理は、参加施設それぞれが自施設の研究者に関して行っています。

*SCRUM-Japan の概要

SCRUM-Japan (Cancer Genome Screening Project for Individualized Medicine in Japan: 産学連携全国がんゲノムスクリーニング) は、国立研究開発法人国立がん研究センターが全国の医療機関、共同開発機関と協力して個別化医療を実現するために実施するがん患者の遺伝子スクリーニング事業です。SCRUM-Japan に参加している共同開発機関は、以下のホームページに記載しています。
http://www.scrum-japan.ncc.go.jp/company_participate/

*上記の研究に利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

《問い合わせ先》

当院における研究責任者および研究内容の問い合わせ担当者

関西医科大学附属病院

〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目3-1

電話 072-804-0101 (代表)

研究責任者：がんセンター・助教 朴将源